

### 13. 水産海洋学アンケート回答要約（東南アジア諸国からの）

（下記 フィリピン、台湾、韓国より6通返答あり、インドネシア、タイ、  
ヴェトナムよりは回答を得られなかった。）

フィリッピン…………… Dr. Deogracias V. Villadolid (Dean,  
Vice-President, Aranta Univ. Rizal, Philippine)  
Mr. I. R. Ronquillo (Bureau of Commercial Fisheries)

の助力を得て回答。

フィリッピン…………… Prof. Teodoro Megia, Head, Univ. of the  
Philippines, College of the Fisheries, Port Area, Manila

タイワン…………… Prof. Chu Tsu-You, Dept. of Zoology,  
National Taiwan Univ., Taipei, Taiwan.

韓 国…………… Mr. Bong Nai Lee, Central Fisheries  
Experimental Station, Pusan, Korea.

〃 …………… Mr. Yang Jae Mok, President Pusan Fisheries  
Univ., Pusan, Korea.

#### (1) 定義（水産海洋学）

- (i) 特別漁業諸種漁具の効率増進に直接関係する色々な海況、それによつて水揚を増し、同時に漁獲率の開発が産卵ストックを破滅せしめることなくて行える限度の決定に導くものとする。
- (ii) 魚族等海洋動植物に関連する海洋環境の研究——物理、化学、生物学
- (iii) 漁業に関連する海洋学、海洋生物資源の環境として、特に河口水域、沿岸、浅海および大洋上層のような特定水域の局地条件。
- (iv) 生態学分野で、特に漁場で形成される生態系の研究分野。

(V) 水産資源の増養殖又は開発に必要な海洋学、産業的に重要な生物の数量と利用度の変動にはたらく環境の一科学で、物理的、化学的環境内の変化で示したものを。

(2) 成 果

(i) 過去60年にICESで収集したデータをNorth Seaの漁況と関係づけ、米国の調査がハワイ水域に、マグロ漁場や大西洋のメンヘーデン漁業における開拓するに役立てた海洋調査。日本における水産海洋学的研究など好例。

(ii) ある漁場で多数有用水族への海洋学的研究実施。

(iii)(iv) 略。

(v) 水産試験場、研究所の教示に注意をはらいこれによって、試業する傾向が一般になった。

(3) 主 題 目

(i) (a) プランクトン研究

(b) 深海游泳魚族の水中検出

(c) 魚群集と結びついた大洋水混合水域

(d) オ一次生産、魚類生産力と海況の関係

(e) 湧昇と漁況の関係を決定するための列島周辺の海況

(f) 漁業に相関ある卓越風により起された、明白な長つゞきする海流

(g) 漁業気象学

(ii) 計査計画；サンプリングの原理、技術と解析、収集データの処理と解釈。

(iii) (a) 海洋の形態（水深、底形、底質）

(b) 海水の物理的、化学的の性質（水温塩分等の分布変化）

(c) 海水の運動（輸送、混合、波浪、潮汐）

(iv) 海況による漁場特性

(a) 魚群形成の場所と時

(b) 関係する魚群の特性

(c) 種々な人工的刺戟に対する魚の行動

(d) 漁撈面と漁場に関する海洋気象学

(e) 海洋生物学

(v) 水産業をたすけるように発展さすべき、水産応用の海洋学。

(4) 今後なすべき目標

(i) ……

(ii) 主要漁業の成功失敗を予察する基礎になるデータ収集のための人員訓練。

(iii) (a) 海中の動植物の生産、分布、回游と変化に影響するすべての因子は如何なるものかを解明する

(b) 漁業に用いる海況予報

(iv) 水産生物学に関連した海洋化学分野として。

(v) 水産業に必須な因子を明かにし、迅速に発見するのに相互助力を得るべき、比較的大規模な国際協力調査又は観測。

(5) 他の化学に必要とする進歩

(i) ……

(ii) 天気予報と産業的に重要な海からの化学成分抽出。

(iii) 漁業盛んな重要海湾に流入する河川からの汚濁水研究。  
生物学中の海洋生態学。

(a) 海洋物理、海洋化学における、測定分析の方法

(b) 気象学における天気予報

(iv) (a) オ一次生産の量を支配する主要因子

(b) 水産資源力学の方法

(c) 沿岸水攪拌機巧としての対流

(d) 深 海 流

(e) 海洋の熱収支

(v) 海洋の研究で、物理学、化学、生物学、地質学のようなこれらの主題は、必須なものであるが、更に重要なことは、これらの主題の結果のまとまつた方向の研究である。

( 宇 田 道 隆 記 )